

国立公衆衛生院研究課程 石引公美

1.目的 現在、家庭・地域には、さまざまな生活課題が表出しており、それらの解決のために、個人やグループが多くの実践活動を行なっている。本報告では、地域の生活課題にとりくむことを可能とする条件を、資源ゴミ収集にとりくんだ地域婦人会の活動を通して提示することを目的とする。

2.対象 静岡県三島市の西婦人会は、昭和50年7月より現在まで、月1回の資源ゴミ収集を、町内会、市当局にも協力を求めながら行なっている。会員数は約860名である。

3.方法 昭和55年12月より56年2月にかけて、数回にわたり、西婦人会役員と、西婦人学級・資源ゴミ収集の関係者よりの聞きとりおよび資料収集、資源ゴミ収集作業見学調査を行なった。それらの結果を、活動のプロセスを追って整理し、考察した。

4.結果 ①学習 活動に入る前に、市より西婦人会に委託された西婦人学級の中で、2年間の公害学習を行なった。49年度は、環境汚染物質と流通・都市公害について、49年度は、三島市の公害・公害行政について、そして50年度に、自分たちで考える公害問題へのとりくみとしてゴミ問題を取りあげ、調査をすると同時に、実践として資源ゴミ収集を開始した。また、その後も地域に焦点を当てた学習を続けており、資源ゴミ収集を含めた会活動の充実に役立っている。②援助 学習に対しては講師紹介、助成金などを市の社会教育から、実践に対しては、講師となつた高校教師の他、町内会、市当局や業者にも協力を求めた。③目的の共有 関係者と交えた話し合いや活動の発表をその後も継続して行ない、記録、連絡の徹底を心がけ、作業を通して連帯感を育むなど、目的の共有に努めている。